地域とつながる学校をめざして

1　主題設定の理由

少子高齢社会がますます進んでいくが、どんな社会であっても、学校と地域との関係は重要であることに間違いない。平成27年に出された「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)」では、学校が地域の拠点となることや、子どもたちが地域と関わり地域に根付くことが重要であると述べている。

さて、本校も例外ではなく子どもの人数が少なくなってきた。それ故か、地域の人々にとっては、特に子育て期間を終えた方々には、子どもたちの姿を見るだけでも嬉しい気持ちになるようである。本校は、下校時の見守りや米作り体験など、さまざまなことで地域の方にお世話になっている。とてもありがたいことである。一方、地域の方にとっても、子どもと交流することで、元気をもらっているようである。交流を終えた後には、必ずと言っていいほど、こういった話を地域の方から伺ってきた。

そこで、子どもたちと地域の方の交流や学校の地域貢献という観点から、平成29年度から新しく取り組み始めた実践を整理することで、その有効性や今後の方向性を明らかにしたいと考え、本研究主題を設定した。

2　研究のねらい

子どもたちと地域の方の交流や学校の地域貢献が地域をいかに元気づけているかを検証する。

3　本校の実践

(1)　あいさつ

①　あいさつゲームをしよう

これまで、地域の人たちには随分とお世話になっていること、お世話になっているならお礼をすべきこと、その一つが、地域の人で出会ったらあいさつをすることを、折に触れ、子どもたちに話をしてきた。それを更に進めるために、年度当初にあいさつゲームをすることとし、始業式に次のような話をした。

> 明日から来週の木曜日までの5日間、あいさつゲームをします。「あいさつは先手必勝、先に行った者が勝ち」です。朝、分団登校の集合の時から朝の読書が始まるまで、10人以上、相手より先に、相手の顔を見て、大きな声で、あいさつをしましょう。新しく入ってくる一年生の見本、手本になるようしっかり頑張りましょう。特に、高学年の人は、地域の人に大きな声であいさつをしてもらいたいです。低学年の見本になってほしい。

効果はてきめんであった。保護者や地域の方から、子どもたちがあいさつをするようになったといった話が、3件も私の耳に届いた。子どもたちは多くの地域の人にあいさつをしたに違いない。9月にも同様の話をいただいた。

> 嬉しいお知らせが届きました
>
> 5月9日午後4時30分頃、○○○の方から、「庭仕事をしていたら、通る子、通る子がみんなあいさつをしていってくれて、気持ちが良かったです。」というお電話をいただきました。とても嬉しかったです。　‥略‥
>
> 先日、朝の交通指導をしているときに、ある児童が私にあいさつをしてから、「これで10人だ。」とつぶやいていました。今も“あいさつゲーム”に取り組んでいることを知って、とても嬉しく思いました。
>
> 「2017.5.16 ○○だより」より

平成30年度も1学期始業式にあいさつゲームの話をした。今年度は、相手より先にあいさつをする人数(目標)を自分で決めることとした。そのため、まわりの子と交流しながら自分の目標を決める時間を作った。あいさつゲームではないが、下校時も地域の方に自分から先にあいさつしようと付け加えた。翌日の朝の職員打合せで、先生方に、朝の会では毎回「今日のあいさつゲームの結果はどうでしたか。」と声を掛けるように依頼した。

地域や保護者からは昨年度ほどの反響はなかったが、効果はやはり現れた。

> 嬉しいお知らせが届きました
>
> 昨日、夕方、二人並んで狭い道を散歩していたら、後ろから自転車が来たので、端に寄りました。もう一台来たようで、振り返ると「こんばんは」との声。私たちも「こんばんは。気をつけてね。」と返しました。「ありがとうございま

す。通ります。」と通り過ぎて行きました。とても気持ちよく散歩を終えました。

「2018.4.26 ○○だより」より

② ○○○子ラリーでも出会う人にあいさつしよう

本校では毎年5月、縦割り班を活用して、○○○子ラリー(○○小版ウォークラリー)を実施している。歩くコースはたくさんの大人が散歩やトレーニングに利用していることを知っていたので、開会式のときに「歩いているときに出会う人たちに大きな声で先にあいさつしよう。高学年の子は低学年の子の見本となるようがんばろう。」という話を入れた。

この話に子どもたちはよく応えた。人と出会うたびに大きな声で相手より先にあいさつをしていった。あいさつをされた人たちも「おはようございます」と返してくださった。その時の笑顔がとても印象的であった。中には、「元気があって気持ちがいいですね」と言ってくださる方が何人もいた。

子どもたちは、帰り道でも、体がとても疲れているにもかかわらず、出会う人にあいさつをしていった。6年生が1年生に、「大きな声であいさつしようね」と声を掛けている姿もみられた。

③ あいさつをする子どもたち (平成30年度)

○○○子ラリーのことである。ある6年生の子と会話する場面があった。なぜか「○○先生はあと何年○○小学校にいますか。」という質問から始まった。その子が言うには、「○○先生が来てから地域であいさつをすることが多くなりました。○○先生が○○小を離れても、○○小は地域でたくさんあいさつする学校だということを覚えておいてください。ときどき思い出してほしい。」とのことだった。

本年度も6年生の社会見学は法隆寺・東大寺の見学と奈良公園の班別学習であった。ここでも、子どもたちは自分から出会う人にあいさつをしていった。お店の人、観光客、社会見学に来ている小学生、外国人にも声を掛けていた。初めのうちは、すこし心配していたが、どの人も表情が柔らかくなってあいさつを返していたので、安心に変わっていった。

7月3日登校指導のために通学路に立っていたとき、体格のいい外国の方が、散歩をしているようで、こちらに向かって歩いてきた。こちらからあいさつをしたところ、笑顔で、ゆっくりとした丁寧な言い方で「おはようございます」と返ってきた。「子どもがたくさん歩いています。子どもたち あいさつします。子どもが好きです。」と教えてくれた。登校指導を終えて、最後の分団といっしょに歩いていると、先程の外国の方が散歩の予定コースを回ってきたのか、こちらに向かって歩いてきた。子どもたちの方から、「ハロー」といさつをしていた。その方は、「私が言ったとおりでしょ」といった意味のことを私にささやいていった。子どもたちに「よく会う人なの?」と尋ねたら、「今日、初めて」と答えてくれた。

(2) ○○地区納涼盆踊り大会への参加

① 「よさこいソーラン」を踊ろう

○○地区には、地域の皆さんがたいへん大切にしている○○地区納涼盆踊り大会がある。これまで、この盆踊り大会には管理職が準備や運営に関わる程度であった。子どもたちや教員の負担になりすぎることなく、これにうまく関われないかと考えていた。

7月の林間学校の準備が始まる頃、担当の5年部担任団より、林間学校のキャンプファイアの時に、みんなで「よさこいソーラン」を踊りたいが、鳴子を学校で準備してもらえないかという相談を受けた。予算をいろいろ検討したがうまく捻出できない。○○地区の自治会連合会に相談を掛けることにした。5年部に、キャンプファイアで踊った「よさこいソーラン」を盆踊り大会で踊ること、踊るのは全員ではなく参加できる児童だけでよいこと、鳴子は児童数に予備を含めて、○セットを準備していただくことを確認して、自治会連合会に相談した。快諾いただいた。その後、職員会議でも経緯と結果を説明し、「3年は続けたい」と私の気持ちを付け加えた。3年続けば、林間学校の取り組みの一つが盆踊り大会への参加とつなぐ仕組みができると考えたからである。これが実現すれば、盆踊り大会のために踊りを覚える、または、そのために指導するという児童と教員の負担がなくなるのである。また、多くの子どもたちが盆踊り大会に参加すれば、保護者や家族の参加がたくさん見込まれ、盆踊り大会自体が大いに盛り上がり、学校の地域貢献ができると考えた。

平成30年度も同様に林間学校で踊る「よさこいソーラン」を盆踊り大会でも踊ることを子どもたちに伝えて取り組んだ。

② 「○○○○音頭」を踊ろう

○○市には「○○○○音頭」がある。比較的簡単に踊ることができる。本校には併設幼稚園があり、幼稚園児に「○○○○音頭」を教え、盆踊り大会で踊ることを計画した。まず、○○会女性部に「○○○○音頭」の踊り方を園児たちに教えていただいた。園開放の時に未就園児の子らも盆踊り大会に参加してもらうよう呼び掛けた。

平成30年度は、2年生にも生活科の学習の一環として○○会女性部に「○○○○音頭」の踊り方を教えてもらうことにした。6月26日には幼稚園児と2年1組・2組にクラス

ごとに1時間ずつ、7月19日には全員がそろって体育館で指導していただくということでお願いした。6月26日当日は、指導に来ていただく直前まで○○○○○施設で練習をしていたそうである。指導後、校長室で休憩していただいたところ、異口同音に子どもたちに元気をもらえたと目をきらきらさせながら、お話しいただいた。7月19日は猛暑が予想され、指導者に高齢な方が多いことから練習を中止にした。中止になったことを子どもたちに伝えたところ、涙ぐむほど残念がっていた子がいたことを担任から教えられた。

③　子どもたちや保護者への呼び掛け

1学期の終業式に子どもたちに次のような話をした。『○○小学校は地域の方々にたくさんお世話になっています。‥具体例を話す‥　地域の方には感謝の気持ちを伝えたいと思います。そのためには地域の方に喜んでもらえることをすることです。例えば、地域の人に出会ったら、あいさつをすることです。また、○○地区の皆さんは、盆踊り大会を大切にしています。○○小学校の皆さんにも参加してほしいと思っています。今年は、5・6年生が「よさこいソーラン」を、幼稚園の子が「○○○○音頭」を踊る予定です。他の子もいっしょに踊ってほしいと思います。たくさんの子に出てほしいと思います。夜のことなので、無理のないところで参加しましょう。』

次年度への子どもたちへの意識付けをねらいとして、2学期の始業式でも終業式でも、盆踊り大会にはたくさんの子たちが参加したことや、地域の方がとても喜んでいたことを話した。平成30年度の1学期終業式、2学期始業式にも同様の話をした。

保護者への呼び掛けとして、林間学校の保護者説明会、6月のPTA合同委員会、7月最後の○○だよりなどでも、参加のねらいや期日をお知らせした。6月のPTA合同委員会では期日をお知らせするや、さっとメモをされる方が複数名みえた。これまでにないことである。

④　盆踊り大会当日

【平成29年度】　準備委員会では、子どもたちが大勢参加してくれるだろう、それに加えて、その家族も参加してくれるだろうということから、参加賞をどうするか、どのくらい準備するかで大いに盛り上がった。

大会当日は雨により運動場で開催することができず、体育館での開催となったが、多くの子どもたちが参加した。受付では、子どもたちのために、かぶり物「キツネの耳」が準備してあり、子どもたちはこれを付けて参加した。また、輪に入って踊った子どもたちには特別の参加賞が準備されていた。子どもたちの参加に対する嬉しさや期待感がここでも感じることができた。

「よさこいソーラン」、「○○○○音頭」をそれぞれ2回ずつ踊った。2回目の「よさこいソーラン」では、5年生の子たちが一緒に踊ろうと低学年の手を引いてくる姿が、「○○○○音頭」では、高学年の子どもたちも輪に入り、音頭に合わせて、中心で踊っている女性部の人にハイタッチしに行く姿が見られ、とても盛り上がった盆踊り大会となった。

大会が終わり片付けをしている時に、ある方がわざわざ私に近づいてきて「子どもたちがたくさん集まってくれてとても嬉しい」と言っていかれたり、「こんなに人が集まったのは始めてだ。」とかいう会話が聞こえたりして、私も嬉しい気持ちになった。

【平成30年度】　平成30年度も子どもたちへの参加賞が用意されていた。たくさんの子どもたちが「よさこいソーラン」と「○○○○音頭」を踊った。「○○○○音頭」には子どもたちの家族も輪に入り、大いに盛り上がった。

4　研究の成果と課題

予想していたように子どもたちが地域の人々とふれ合ったり、地域行事に参加することで、地域の人々は元気をもらい、地域行事も盛り上がった。加えて、子ども自身が地域の人々とのつながりに喜びを感じるようになり、地域の一員であることの自覚が芽生え、地域との関係における自己有用感も高まっていった。更には、保護者が地域行事に目を向けるようになった。

「○○○○音頭」は生活科の学習に位置づけたことにより、毎年、2年生で学習する仕組みを作ることができたが、「よさこいソーラン」や“地域の人々へのあいさつ”については、そのような仕組みを作ることができず、学習や取り組みが途切れてしまう可能性がある。特に、盆踊り大会では、取り組みが引き継がれ、「よさこいソーラン」や「○○○○音頭」を踊る場面で、本校の子どもたちが中心となりつつも、本校を卒業した中・高生も輪に入って踊ることを願っている。このことは、学校の地域貢献につながり、今回の研究で明らかになった成果以外にも、様々な効果が期待できるからである。今回の取り組みの意義や、成果と課題を新しい先生にしっかり伝えたい。